

# 令和4年度宇治田原小学校学校経営方針

## <宇治田原町 育てたい子ども像 >

- ◆夢に向かって 自ら学ぶ子
- ◆人とのつながり(絆)を大切にする子
- ◆誇りを持って ふるさとを語れる子

そのために

## 学校力を高め、『誇りに思える宇治田原小学校』づくりをすすめる

### <学校教育目標>

- ◆生涯にわたる学習の基盤を培い、心豊かな人間性と責任感を持ち、主体的に生きる力を育てる。
- ◆心身ともに健やかで知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指す。

特に

- 「知」(確かな学力をはぐくむ)
- 「徳」(道徳性を養う)
- 「体」(健やかな体をつくる)
- 「自」(自己を見つめ将来を展望する力をはぐくむ)  
【周りから認められ必要とされていると感じる、自立、職業意識や考え方の変化等】
- 「和」(人権尊重を基盤とし共生する力をはぐくむ)【コミュニケーション、おもてなし等】

の5つ以下3つの行動指針を教育活動全体を通して実践していく。

行動指針:「あいさつ」「そうじ」「時間を守る」を大切にし、規律ある学校生活を創造する。

## I 子どもにとって楽しい学校

### 1 褒めて伸ばす教育(児童の自己肯定感、自己有用感を高める教育)

- (1) 子どもが認められ安心できる学級・学校づくり
  - ア 一人一人の人権を尊重する。
  - イ 教師の子どもを「認める言葉の習慣化」  
(7) 子どもの「よいところ」を見付け、それを認め、学級で共有する。
  - (1) 共に喜び合える人間関係を築く。
    - a 子どもたちが互いを認め合える学級づくり  
**<コミュニケーション能力の育成>**
      - (1) 子どもたちのよい行いなどの見える化
      - ウ 失敗してもいい(失敗から学ぶ)
      - エ 間違ってもいい  
(考えたことに価値がある間違えは正せばよい=学ぶ)
      - オ 教室は間違えるところ、間違って正して成長を遂げるところ

◆全国学力・学習状況調査質問紙調査より◆	
・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	
全国：86.1%	府：85.0%
山城教育局：81.7%	
・国語正答率とのクロス集計	
あてはまる：正答率68.8%	
ややあてはまる：正答率66.4%	
ややあてはまらない：正答率59.5%	
あてはまらない：正答率54.6%	
・算数正答率とのクロス集計	
あてはまる：正答率70.1%	
ややあてはまる：正答率68.2%	
ややあてはまらない：正答率62.6%	
あてはまらない：正答率59.5%	

### (2) 個人目標を持って自己を高める学びの育成

- ア 自己を高める「学びのサイクル」を身に付けさせる。
  - (7) 学期毎の「学習」「生活」の目標設定
- (1) 学期途中での「振り返り」(これからどうしたいか【A】を含む)の実施
- (ウ) 学期末の「振り返り」(次の学期どうしたいか【A】を含む)の実施
- (I) キャリアパスポートを掲示しその1枚目に個人目標を差し込み教室に掲示

### 2 一人一人の児童に応じたきめ細かい指導の充実【特別支援教育の視点】

- (1) ティーム・ティーチングにより、個々の児童の状況に応じた指導を行う。
  - (2) 個々の児童の状況に応じた補充学習を行う。【チャレンジタイム、AIドリルの活用等】
  - (3) 通級指導教室児童への個別支援の充実
    - 【通級指導教室担当者と各担任及び特別支援教育コーディネーター・管理職との連携】
- ア 通級指導教室対象児童の状況理解(各学級での授業参観等)
- イ 通級指導教室対象児童在籍の担任との懇談
- ウ 通級指導教室担当の研修【発達検査を含む】の実施
- エ 維孝館中学校での通級指導教室の巡回指導の実施

### 3 わかりできる喜びを味わう<sup>く</sup>教育を行うための指導方法の工夫改善>

- ※「学びのサイクル」[P【めあて】→D【その時間の学習活動】→C【その時間の学習の振り返り】]→A【振り返った結果どうしたいのか】]を確実に実施し自己教育力を身に付けさせる。
- (1) 生徒指導の三原則(共感的人間関係・自己存在感・自己決定力)を大切にした授業実践
  - (2) 「聞く」ではなく「聴く」:耳を動かせ、目を動かせ、心・頭を動かせて「聴く」を大切にする。
  - (3) 授業のユニバーサルデザイン(だれでも、分かる・できる授業)
    - ア 焦点化:めあての具体化、端的な指示
    - イ 共有化:本時のまとめ(最適解、納得解など)
    - ウ 視覚化:全学級における学習の流れを示す掲示カード(めあて・一人学び・話し合い・まとめ・振り返りなど)の活用など
  - (4) 学習の見通しを持たせた主体的な学び
    - ア めあての提示
    - イ 単元ゴール・単元計画の意識化
    - ウ 学習評価計画の提示【どこで、記録の評価をとるのか児童に単元はじめ等に示す】
  - (5) 教師は、子どもに「教える人(Teacher)」ではなく、学習の主体者である子どもたちの力を引き出す「ファシリテーター(Facilitator)」を目指す。
  - (6) 対話の場面を設定する授業展開(めあての明確化)
    - ア タブレット端末の活用を含めた課題・目的・状況に応じた最適な話し合い活動(手段)
      - (7) 各々の考えを広げる・深める話し合い
      - (1) 納得解を出す話し合い
      - (ウ) 最適解を出す話し合い
    - (7) 振り返り(「できるようになったこと・分かったこと」「どのように考え、どのように答えが出せたのか」「次にどのようにしたいのか」等を綴る。)によるメタ認知力の育成

### 4 「令和の日本型学校教育」における「個別最適な学び」と「協働的な学び」及び「主体的、対話的で深い学び」の研究

- (1) 「個別最適な学び」「協働的な学び」の追究
  - ア 「個別最適な学び」「協働的な学び」についての研修【1学期】
    - (7) 「個別最適な学び」に係る「指導の個別化」「学習の個性化」について
    - (1) 「個別最適な学び」を生かした「協働的な学び」「主体的、対話的で深い学び」について
    - (9) 「個別最適な学び」「協働的な学び」の効果的な活用について
  - イ 「個別最適な学び」「協働的な学び」の計画【夏季校内研修会】
    - (7) 研究を推進する教科で重要単元を1単元設定し、学力低・中位層児童を基準にした単元指導計画作成
    - (1) 設定した要単元内の「協働的な学び」の指導計画作成
    - (9) 「総合的な学習の時間」における(7)の学習の発展としての「協働的な学び」の単元指導計画作成
  - ウ 「個別最適な学び」「協働的な学び」の実践【2, 3学期】
    - (7) 設定した重要単元内の「指導の個別化」
    - (1) 事前研究会【見る視点を明確にした協議】
    - (9) 授業研究会【見る視点に沿った参観、※状況に応じて録画を含める】
    - (1) 事後研究会【見る視点を明確にした協議】
  - (2) 「個別最適な学び」の追究に係る補充学習について
    - ア AIドリルの効果的な活用【1学期～】
    - イ チャレンジタイムを活用した効果的な補充学習【1学期～】

### 5 学習評価【田原小学校と連携】

- (1) 「知識・技能」の評価
  - ア ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮する。(業者テストの吟味が必要)
  - イ 実際に知識や技能を用いる場面を設定する。
  - (7) 児童に文章により説明させる。
  - (1) 各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験させたり、式やグラフで表現させたりする。

- (2) 「思考・判断・表現」の評価(各教科とも、学期に±2単元)　※業者テストも評価の1つだが、主としない。  
 ア パフォーマンス評価(話し合い・発表・レポート・作品・実技等々)の実施  
 (7) ループリックの作成・評価  
 (1) 学習評価計画の子どもたちへの事前【単元の学習が始まるとき】提示
- (3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価  
 ア 知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価【ワークシート・ノート等の「振り返り」や次時のためて設定等から】する。  
 イ 評価の工夫例  
 (7) ノートやレポート等における記述  
 (1) 授業中の発言  
 (9) 教師による行動観察  
 (I) 児童による自己評価や相互評価の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の1つとして用いる。

## 6 モジュール授業について

- (1) 年度当初の研修の実施【モジュール授業の基本的理解を図る】  
 (2) 効果的な指導方法の交流・活用

## 7 カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた教育課程の編成

各教科で身に付いた資質・能力を他の教科や総合的な学習の時間、特別活動等々で相互に發揮しやすいように教育課程の配列等を資質・能力【育てたい子ども像・「知」「徳」「体」「自」「和・付けたい力(今年度要協議)】の視点で編成していく。

## II 職員にとって働きがいのある学校

### I 職員が幸せを感じる職場づくり

- (1) 互いの人権が尊重された明るい職場=元気な先生の姿

ア 心身の健康:自分・家族の健康、楽しみを大切にする。  
 「しっかり食べて、ゆっくりと寝る」「楽しみを持つ」  
 イ 人間関係:互いに子どもの成長を喜びとして共有できる。  
 互いに悩みを相談できる。※悩みを抱え込まない。  
 少々の雑談と笑いも大切に。  
 ※先生や子どもを決して笑いのネタにしない。

ウ 自己決定:学級担任・各分掌担当として、校務分掌による職務遂行に際して、相談することを大切にしながら自己決定し、やりがいを感じながら働く。(学校経営への積極的な参画)

エ 働き方改革の推進  
 (7) 1日の職務遂行のセルフ・マネジメント(意識改革):各月毎の目安となる退勤時刻の配付・掲示  
 (1) 研修の重点化  
 (7) 午後5時~翌朝午前8時までの電話音声案内  
 ※新1年生保護者及び転入生保護者への案内要配布

- (2) チーム『宇治田原』としてのRPDCAサイクルを活かした資質・能力の向上  
 ア 授業や生徒指導において、研究・協議を積み上げ、全教職員が一致した指導(情報の共有化、報告・連絡・相談と確認の徹底)を行う。  
 イ 教科・単元の交換授業による一部教科担任制を実施(児童理解、集団指導体制、中学校への円滑な移行、教師力の育成)する。  
 ウ 学校が組織として機能するための時間設定(新しい取組・大幅に変更する取組についての企画委員会での検討・ブロック・学年会)と、互いに協働し自己の職責を果たしていく。  
 (7) 教科・教科外年間計画について  
 前年度の引き継ぎ事項を、今年度の方針・計画に明確に反映させる。  
 (1) 互いに協力し合って、一部の教員に職務が偏重されないようにする。  
 (9) 新しく本校に赴任した先生方への支援(前年度担当学年教員等による)  
 (I) 本校で初めての学年担当となった先生方への支援(当該学年経験者による)  
 (オ) 本校で初めての校務分掌担当者となった先生方への支援(当該校務分掌経験者による)

エ 子ども・保護者の期待に応える教師力を身に付けるための真摯な研鑽(人材育成)

- (7) 重点研究における研究授業及び公開授業の実施  
 (1) 教員による授業参観(研修したい参観の視点を持つ)  
 ※特別支援学級の授業参観:全員1回

※研修したい学年・学級については、要調整

※外国语・外国语活動・書写的授業時間、月曜5,6校時、火曜6校時、テスト時間の活用

### (ウ) 外部講師の授業参観、重点研究会参加による指導・助言

- (1) 自己のキャリア、職務に応じた各種研修への参加  
 (オ) 山城教育局教職員支援アドバイザーの活用

## III 保護者にとって信頼できる学校

- 1 適切な学校公開の場【オンラインを含む】を設定するとともに、『お知らせメール』による情報連携、学校・学年だより、学校HP等の工夫による情報発信
- 2 保護者と教師等が、子どものことを気軽に語り合える相談活動の充実
- 3 外部アンケートによる学校改善

## IV 地域にとってつながりあえる学校

【社会総がかりで育てる『おらか町のおらが学校・子どもたち』 包み込まれているという感覚】

- 1 学校支援ボランティア(原木椎茸栽培農家など)をはじめとする諸団体・機関(読み聞かせ隊・福祉教育:手話・点字サークル、社会福祉協議会など)と連携した学習【オンラインを含む】の推進

- 2 見守り安全パトロール隊登録者と連携した子どもの安全確保
- 3 宇治田原地域ぐるみ子育てネットワーク(学社連携活動)の充実

## V 本町の重点施策を推進する学校

- 1 AIドリルの効果的な活用による「個別最適な学び」の追究
- 2 今後の施設一体型義務教育学校開校に向けた小中一貫教育の研究・推進  
 (小中連携・小小連携の推進、三校の教師で町内のすべての子どもたちを育てるために)
- 3 「主体的・対話的で深い学び」の追究、言語活動の充実及びICTの効果的な活用・一人1台タブレットの活用促進等による確かな学力の定着
- 4 特別支援教育の推進(教育支援教員の配置、通級指導教室の開設を含む)
- 5 外国語専科教員とALTによる外国語科・外国語活動の充実
- 6 学力充実事業(学力充実教員の配置、学力テスト等)、お茶の里っ子を育む学習事業(茶摘み等々)及び心を育てる図書館推進事業(子ども司書の取組、図書館司書の配置、図書の購入、選書会等)の実施、読書活動の充実